

道 德

(13) 道徳

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 道徳科における見方・考え方を働かせながら、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う、「考え、議論する道徳」の実現に向けた工夫 (2) 言語能力や理論的思考力の育成につなげる言語活動を充実させるための工夫 (3) ICT機器を活用した学習活動の充実を図るための工夫 (4) ねらいとする道徳的価値への方向付けを図ったり、学んだ道徳的価値を基に自らを振り返ったりするための工夫 (5) 道徳科の特質に応じた体験活動を生かした工夫や、家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫 (6) 児童の興味・関心を生かし、児童が道徳的価値を自分との関わりで考えることができるような工夫 (7) 他の教科等や中学校との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容別配当の分量 (2) 教材・資料等の分量 (3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫 等
3 その他	・いじめ問題への対応の工夫

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
2 東書	<p>●着眼点(1)について 全学年巻頭に、言語活動を含めた授業の流れについて、短い文章とさし絵で示されており、児童が主体的に「考え、議論する道徳」を実現できるよう工夫されている。また、全学年巻末に、自分の考えを可視化するためのツールが例示されており、友だちと考えを比べ、多様な感じ方や考え方があることに気づけるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(2)について パズル、学校新聞、絵手紙等、様々な素材や活動を通じて議論を促し、多様な考えを引き出す教材が掲載されており、言語活動の充実が図られるよう工夫されている。 [例] 1年 (P82～85) 4年 (P69～71)</p> <p>●着眼点(3)について ICT 機器を活用した学習活動の充実が図られるよう、朗読、スライドショー等のデジタルコンテンツにアクセスできる二次元コードが第1学年の入門期を除く全ての教材に配置されている。</p> <p>●着眼点(4)について 全学年巻頭に、教材で学んだことをもとに、自己を見つめる際の考え方が例示されている。また、巻末に学習の記録のページが設けられており、自らを振り返ることができるよう工夫されている。</p>	<p>●着眼点(5)について 各学年に、問題解決的な学習と体験的な学習を取り入れた教材が掲載されており、道徳的価値を児童が自己との関わりで考えられるよう工夫されている。また、巻頭や情報モラルコラムには保護者に向けたメッセージが掲載されており、家庭や地域と連携しながら情報活用能力を身につけられるよう工夫されている。 [例] 2年 (P33, 94) 3年 (P7, 62)</p> <p>●着眼点(6)について 中・高学年では、教材末にキャラクターによる学習への投げかけが掲載されており、児童の問題意識を喚起し、自己の生き方についての考えを深められるよう工夫されている。 [例] 6年 (P15, 19)</p> <p>●着眼点(7)について 各学年に、他教科等における道徳教育を深化、統合することを意識した教材が掲載されている。また、教材末に他教科等における道徳教育との関連を示した投げかけがあり、学習を他教科等や日常生活との関連が図られるよう工夫されている。第6学年では、人物教材が複数掲載され、先人の生き方に触れることで自己の生き方について考えを深められるようになっており、中学校への円滑な接続に配慮されている。 [例] 5年 (P24～27) 6年 (P162～166)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
17 教出	<p>●着眼点(1)について 全学年巻頭で、「考えよう」や「深めよう」の使い方について説明や例示があり、「考え、議論する道徳」が実現されるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(2)について 全学年巻頭で、道徳での学び方が示されており、言語活動が適切に行えるよう工夫されている。また、全教材末に、話し合ったり自分の考えをまとめたりする活動が設けられ、言語活動が充実するよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(3)について 効果的な学習が行えるよう、教材の解説や関連図書の紹介等のサイトにアクセスできる二次元コードが教材冒頭と教材末に配置されている。 〔例〕 3年 (P20, 23)</p> <p>●着眼点(4)について 全教材に主題名が記される等、教材ごとの学習の視点が明確に示されている。また、教材冒頭にキャラクターによる「導入」が設けられており、目的をつかんでから学習を進められるよう工夫されている。各教材末にはチェック欄が設けられ、言葉やマークを使って学習を振り返ることができるよう工夫されている。</p>	<p>●着眼点(5)について 体験的な学習に適した教材には、教材末に役割演技や日常体験から話し合う活動が設定されており、実感をもって道徳的価値に対する理解を深められるよう工夫されている。また、各学年で家族や地域社会と自分との関わりについて考える教材が掲載され、家族や地域社会の一員としての役割とその責任が自覚できるよう工夫されている。 〔例〕 2年 (P30～33) 5年 (P52～55)</p> <p>●着眼点(6)について 全教材末に、児童の思考を促し、思考を深化させるような発問が設けられており、教材を通して扱った道徳的価値を、自分との関わりでもう一度考えられるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(7)について 教材末の「つなげよう」では、シミュレーションや調べ学習等を通して授業で考えたことを実生活につなげ、生かすことができるよう発問が設定されている。また、巻末に他教科等とのつながりの一覧が示され、他教科等との関連を意識した学習ができるよう工夫されている。第6学年では、人物教材が複数掲載され、先人の生き方に触れることで自己の生き方について考えを深められるようになっており、中学校への円滑な接続に配慮されている。 〔例〕 6年 (P96～101, 107)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
38 光村	<p>●着眼点(1)について 第3学年以上の第2教材では、教材の流れに沿って「自分」「教材」「友だち」との対話を意識した道徳の学び方が示されており、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。 〔例〕6年(P10～15)</p> <p>●着眼点(2)について 第2学年以上の第1教材に、話し合いのコツが示されている。また、話し合いで役立つ言葉の紹介や、思考ツールの活用等、学習を深めるための様々な学習活動が提案され、言語活動の充実が図られるよう工夫されている。 〔例〕2年(P98) 4年(P107)</p> <p>●着眼点(3)について 授業や家庭学習で活用できるよう、教材に関連した写真や朗読等のデジタルコンテンツにアクセスできる二次元コードが配置されている。 〔例〕1年(P34)</p> <p>●着眼点(4)について 全教材末の「考えよう・話し合おう」には学びのテーマが太字で示され、教材を通して何を学ぶのかを意識できるよう工夫されている。また、巻末に「学びの記録」が設けられ、一時間ごとの学習を発達段階に応じてシールを貼ったり一言感想を書いたりして振り返ることができるよう工夫されている。</p>	<p>●着眼点(5)について 各学年に、演じて考える体験的な学習が設定されており、児童が実感をもって道徳的価値について考えが深められるよう工夫されている。また、第3学年以上の巻末付録には、日本各地の伝統文化や、地域で取り組まれている防災活動等が紹介されており、郷土等のよさについて自主的に学べるよう工夫されている。 〔例〕1年(P80) 3年(P174～175)</p> <p>●着眼点(6)について 教材冒頭のキャラクターによる問いかけから、教材の内容や道徳的価値と自分とを結びつけて考えられるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(7)について 第2学年以上の教材末には、他教科等で学習する内容との関連づけや関連図書の紹介等が示されており、他教科や日常生活につながるよう配慮されている。また、他教科やSDGsとの関連がわかるようマークが付されており、その関連がわかるよう工夫されている。第6学年では、人物教材が複数掲載されるとともに、キャリア教育の視点から労働に関する教材が掲載され、自己の生き方についての考えを深められるようになっており、中学校への円滑な接続に配慮されている。 〔例〕5年(P46, 53) 6年(P189～194)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
116 日文	<p>●着眼点(1)について 全学年巻頭で、学習方法が写真や動画で解説されており、「考え、議論する道徳」が視覚的に捉えられるよう工夫されている。また、学習した道徳的価値について様々な角度から問題を考える素材が例示されており、多面的・多角的な学習につながるよう工夫されている。 〔例〕3年(P4~5, 136~137)</p> <p>●着眼点(2)について 別冊「道徳ノート」に自分の考えを書くことにより、考える、話す、聞く、書く、各言語活動の充実を図り、言語活用能力が育成されるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(3)について 児童の学習への興味・関心を高められるよう、教材に関連した画像や動画等のデジタルコンテンツにアクセスできる二次元コードが全教材に配置されている。</p> <p>●着眼点(4)について 各教材冒頭にキーワードが明示され、児童が道徳的価値と関連づけて思考を進められるよう配慮されているとともに、リード文と主な登場人物が記載され、教材内容を理解する際の助けとなるよう工夫されている。また、別冊「道徳ノート」に1時間の学習の振り返りをマークや文章で記入したり、学期ごとの振り返りを記入したりすることができるよう工夫されている。</p>	<p>●着眼点(5)について 体験的な学習を取り入れることが効果的な教材には、具体的な活動例や留意点等が示され、授業場面で参考にできるよう工夫されている。また、道徳ノートには、学期ごとにこれまでの学習を振り返って保護者に伝え、保護者がコメントを記入するページが設けられ、家庭との連携が図られるよう工夫されている。 〔例〕4年(P114~119)</p> <p>●着眼点(6)について 様々な人々の生き方を教材として取り上げることで、児童が自己を見つめ、人としての生き方について考えられるよう配慮されている。 〔例〕2年(P34~37)</p> <p>●着眼点(7)について 他教科等の学習活動そのものを素材とした教材が掲載されており、様々な視点で物事を捉えられるよう工夫されている。また、中学校との接続を視野に、高学年は、人物教材や事実を基にした社会問題を題材にした教材等を通して、よりよく生きる喜びを実感し、国家・社会の一員としての自覚を育てることが意識された内容となるよう工夫されている。 〔例〕1年(P54~55) 6年(P42~45)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
208 光文	<p>●着眼点(1)について 全学年巻頭で、見通しをもって学ぶことができるようオリエンテーションのページが設けられ、「考え、議論する道徳」が実現されるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(2)について 全学年巻頭で、思考ツール例、話し合いの方法及びノートの記事例が掲載されるとともに、関連する本を読む活動や考えたことを書いて言語化する活動が終末・発展で提案され、言語活動の充実が図られるよう工夫されている。 〔例〕1年(P6～9, 125)</p> <p>●着眼点(3)について 学習効果が高まるよう、教材理解をサポートする写真や動画、登場する人物のメッセージ等のコンテンツにアクセスできる二次元コードが配置されている。 〔例〕2年(P40, 110)</p> <p>●着眼点(4)について 全教材に主題名が記されるなど、教材ごとの学習の視点が明確に示されている。また、教材冒頭に、鳥のアイコンにより、教材に入り込むきっかけとなる問いかけがされており、目的をつかんでから学習に入れるよう工夫されている。巻末には、毎時間の学習の記録を記入するページが設けられ、自らの成長を実感できるよう工夫されている。</p>	<p>●着眼点(5)について 各学年に、日常生活で実際に問題となる場面を想定した体験活動を通して、よりよい人間関係を構築する力を育むためのコラムが設定されている。また、教材末で、家庭や地域の人たちと関わりをもたせた活動が提示され、実生活へつながるよう配慮されている。 〔例〕3年(P28～29) 6年(P25)</p> <p>●着眼点(6)について 全教材末に、道徳の学びが日常生活へ生かされるよう発展的な問いが設けられている。また、SDGsに関する課題については、全学年に道徳に関連した目標を取り上げたコラムを設定し、道徳で学んだことを生かし、自分ごととして考え行動する態度が育成されるよう工夫されている。 〔例〕4年(160～161)</p> <p>●着眼点(7)について 他教科や特別活動での学習を意識した題材が掲載されるとともに、各教材と関連する教科が一覧で示されており、他教科等との関連を図った学習が充実するよう工夫されている。また、高学年では、人物教材が複数掲載され、先人の生き方に触れることで自己の生き方について考えを深められるようになっており、中学校への円滑な接続に配慮されている。 〔例〕5年(P82～85) 6年(P14～17)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
224 学研	<p>●着眼点(1)について 全学年巻頭で、道徳で何を学ぶのか、どのように学ぶのかについて発達段階に応じて紹介するページが設けられており、「考え、議論する道徳」が実現するよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(2)について 教材の途中や特設ページに記入欄が設けられるなど、話し合いや記述等の言語活動の充実が図られるよう工夫されている。 〔例〕2年(P40,53)</p> <p>●着眼点(3)について 児童の学びの幅を広げ、考えを深めることができるよう、教材に関する写真・動画・音声やクイズ形式のデジタルコンテンツにアクセスできる二次元コードが配置されている。 〔例〕1年(P22,26)</p> <p>●着眼点(4)について 全教材に「自分」「他者」「社会」「命や自然」の視点がわかりやすいようマークで示されるとともに、冒頭に教材へのスムーズな導入を助ける言葉が書かれており、教材を生かした授業ができるよう工夫されている。また、巻末に心に残ったことや次学年の自分へのメッセージを書き込むページが設けられ、自身の成長を振り返り、課題や目標を見つけることができるよう工夫されている。</p>	<p>●着眼点(5)について 問題解決的な学習や、体験的な学習に適した教材が特設ページとして随所に取り入れられている。また、家庭生活や地域社会に関わりのある教材が取り入れられている。 〔例〕5年(P23,63,14~17)</p> <p>●着眼点(6)について 巻頭の「つながるわたし広がるわたし」では、書き込み欄を通して自分を取り巻く社会へ意識を向けながら、自分自身とのつながりを考えることができるよう工夫されている。また、全教材末に、児童が自己を見つめて考えるきっかけとなる問いがあり、道徳的価値を自分との関わりの中で考えることができるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(7)について 全教材に現代的な課題のマークが付されており、身の回りの課題や他教科等とのつながりを意識した学習が進められるよう工夫されている。また、各学年に他教科等での道徳性の育成につながる教材が掲載されており、年間指導計画に生かせるよう工夫されている。第6学年では、働くことの意味や夢をかなえた生き方等を扱った教材が複数掲載され、自己の生き方について考えを深められるようになっており、中学校への円滑な接続に配慮されている。 〔例〕6年(P28~33)</p>

2 使用上の便宜

項目 発行者の 番号・略称	総 ページ	(1) 内容別配当の分量					(2) 教材・資料等の分量						
		A 主 関 事 と 自 分 に 関 する こと	B 主 り に 関 する こと と の 関 わ り	C 主 と し て 集 団 や 社 会 の 関 わり に 関 する こと	D 主 と し て 生 命 や 自 然 、 崇 高 な もの の 関 わり に 関 する こと	そ の 他	教 材 数	書 き 込 み 欄 の 数	コ ラ ム の 数	体 験 的 な 学 習 へ の 手 立 て の 数	二 次 元 コ ー ド の 数	三 重 県 に 関 わ る 記 述 等	
2 東書	1年	144	39	35	30	23	17	34	4	11	6	36	-
	2年	160	44	37	36	26	17	35	6	9	6	42	-
	3年	176	32	47	47	33	17	35	6	13	4	48	-
	4年	178	42	38	46	33	19	35	7	11	4	46	-
	5年	186	40	37	56	34	19	35	7	11	4	51	-
	6年	194	37	34	57	47	19	35	6	12	3	52	-
17 教出	1年	152	42	32	54	16	8	34	2	5	4	32	-
	2年	152	42	36	48	16	10	35	2	6	5	36	-
	3年	160	37	35	51	25	12	35	2	4	7	47	-
	4年	160	38	41	44	25	12	35	2	5	5	51	-
	5年	176	46	28	62	28	12	35	2	5	5	54	-
	6年	176	33	41	53	37	12	35	2	10	5	55	○
38 光村	1年	128	33	28	37	19	11	34	0	2	3	17	-
	2年	160	43	35	39	26	17	35	1	2	4	19	-
	3年	176	40	44	44	24	24	35	7	4	5	26	-
	4年	184	42	46	44	29	23	35	4	4	4	27	-
	5年	192	48	48	39	35	22	35	2	4	5	23	○
	6年	208	40	45	58	43	22	35	2	4	4	25	-
116 日文	1年	152	40	30	52	20	10	37	2	5	6	106	-
	2年	168	50	36	56	18	8	38	4	5	5	106	-
	3年	184	42	46	64	24	8	38	4	5	5	120	-
	4年	188	46	42	66	26	8	38	4	5	5	117	-
	5年	184	40	46	56	34	8	38	1	5	5	106	-
	6年	192	48	42	60	34	8	38	2	5	4	119	-
208 光文	1年	156	42	24	51	25	14	40	2	9	3	8	-
	2年	172	40	42	47	27	16	40	6	8	4	6	○
	3年	180	42	44	49	29	16	40	3	6	2	9	-
	4年	184	36	49	58	26	15	40	2	8	2	12	-
	5年	188	35	35	63	40	15	40	4	10	2	13	○
	6年	188	40	34	63	36	15	40	2	8	1	10	-
224 学研	1年	140	42	31	30	24	13	34	8	12	5	11	-
	2年	148	47	30	37	21	13	35	8	9	4	10	-
	3年	156	36	36	42	29	13	35	13	11	3	9	○
	4年	164	37	43	45	26	13	35	11	13	2	10	-
	5年	160	36	31	46	34	13	35	9	12	2	9	-
	6年	168	36	38	49	32	13	35	9	6	1	10	-

(3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童への配慮、編集上の工夫等

2 東書	<ul style="list-style-type: none"> ・サイズはA B版で、軽量で丈夫な用紙が使われている。 ・ユニバーサルデザインフォントが使用されている。また、内容項目の4つの視点をマークで表すなど、カラーユニバーサルデザインにも配慮しているだけでなく、絵柄も変えられている。 ・第1学年の第1～6教材が入門期「どうとくスタート」に位置づけられ、幼児期の教育との接続に配慮されている。
1 7 教出	<ul style="list-style-type: none"> ・サイズはA B版で、教材内容を精選して全体のページ数を抑えらるとともに、軽量で丈夫な用紙が使われている。 ・ユニバーサルデザインフォントが使用されている。また、色覚の個人差によって学習に支障をきたすことがないよう、配色や表現方法が配慮されている。 ・各学年で重点テーマが設定され、「教材+コラム」で構成したユニットが設置されている。
3 8 光村	<ul style="list-style-type: none"> ・サイズはB 5版で、教材を精選することでページ数を抑え、教科書を軽くしている。 ・文字の大きさや配置、枠組みを使ったデザイン処理などユニバーサルデザインの観点から配慮されている。また、カラーユニバーサルデザインに配慮するとともに、色の別だけに頼らず、文字の説明も加えるなど見分けやすい配慮がされている。 ・各学年で重点テーマが設定され、「教材+コラム」で構成したユニットが設置されている。
1 1 6 日文	<ul style="list-style-type: none"> ・サイズはA B版で、軽い用紙が使用されている。 ・ユニバーサルデザインフォントが使用されている。また、色覚の個人差に配慮したレイアウトであるとともに、色調や色の組み合わせなどにも配慮されている。 ・小学1年生では小学校へのスムーズな移行に配慮し、イラストや写真を中心に構成したかるた風の目次を配置して、道徳科への興味・関心を高めるよう工夫されている。
2 0 8 光文	<ul style="list-style-type: none"> ・サイズはA B版で、軽量化が図られている。 ・ユニバーサルデザインフォントが使用されている。また、図版やグラフなどの配色は、色覚の個人差について配慮されている。 ・各学年で重点テーマを設定し、複数時間構成にすることで同じテーマを多角的な視点から考えたり、学びをさらに深めたりすることができるよう工夫されている。
2 2 4 学研	<ul style="list-style-type: none"> ・サイズはA B版で、特徴ある挿絵が掲載されている。 ・ユニバーサルフォント・カラーユニバーサルデザインが採用され、紙・デザイン・色使いについて配慮されている。 ・「いのち」を最重要テーマとして「いのちのユニット」を設置し、多面的・多角的にいのちに向き合えるよう配慮されている。

3 その他

発行者の 番号・略称	いじめ問題への対応の工夫
2 東書	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの防止に直接関わる「いじめ（人間関係）」「いのち（生命の尊厳）」「じぶん（自己肯定感）」の3ユニットが設置され、繰り返しいじめの防止について考えられるよう構成されている。
1 7 教出	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ問題」や「差別問題」を重点テーマとしたユニットが設置され、6年間を通して、様々な側面から考え深めるよう複数の教材が系統的に各学年に配置されている。
3 8 光村	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年を通して、様々な内容項目からいじめ問題のユニットが設定されており、いじめをしない、させない、見過ごさないための道徳性が系統的に育成されるよう工夫されている。
1 1 6 日文	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめを「間接的に扱った教材」「直接的に扱った教材」「いじめ防止のコラム」を組み合わせ、年間3回学習する機会を設け、繰り返しいじめの防止について考えられるよう構成されている。
2 0 8 光文	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年を通して、直接的・間接的にいじめについて子ども自身の問題として捉えられる教材を配置している。また、へこんでも立ち直る力（レジリエンス）についての教材が取り上げられている。
2 2 4 学研	<ul style="list-style-type: none"> ・最重要テーマを「いのち」に設定し、「生命の尊さ」や「いのちのユニット」の教材を年間を通してバランスよく配置することで、命の教育を土台としていじめ防止へ取り組むことができるよう工夫されている。